

第7章 神奈川県農林水産業【問38～問43】

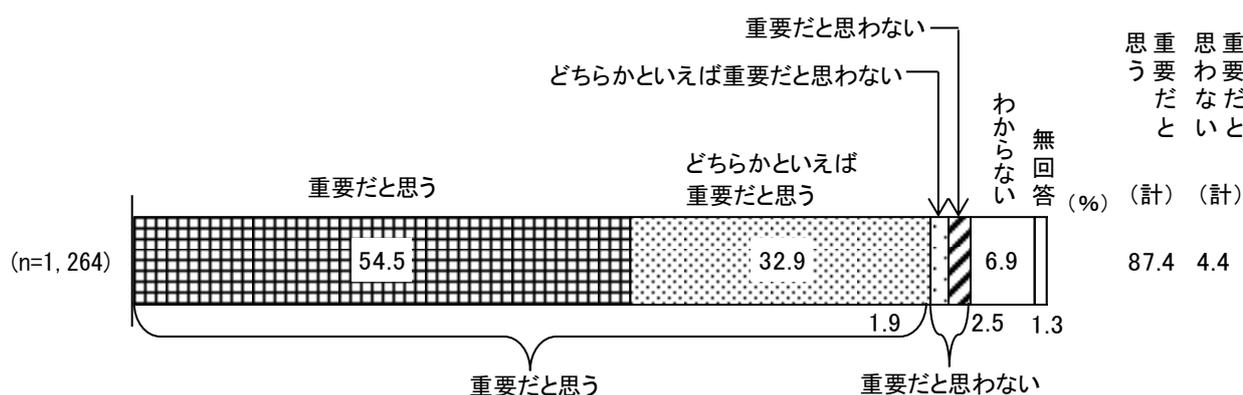
1 「地産地消」の取組の重要度【問38】

【全体の状況】

県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組を重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(54.5%)と「どちらかといえば重要だと思う」(32.9%)を合わせた《重要だと思う》は87.4%であった。

一方、「重要だと思わない」(2.5%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(1.9%)を合わせた《重要だと思わない》は4.4%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 「地産地消」の取組の重要度



【地域別の状況】

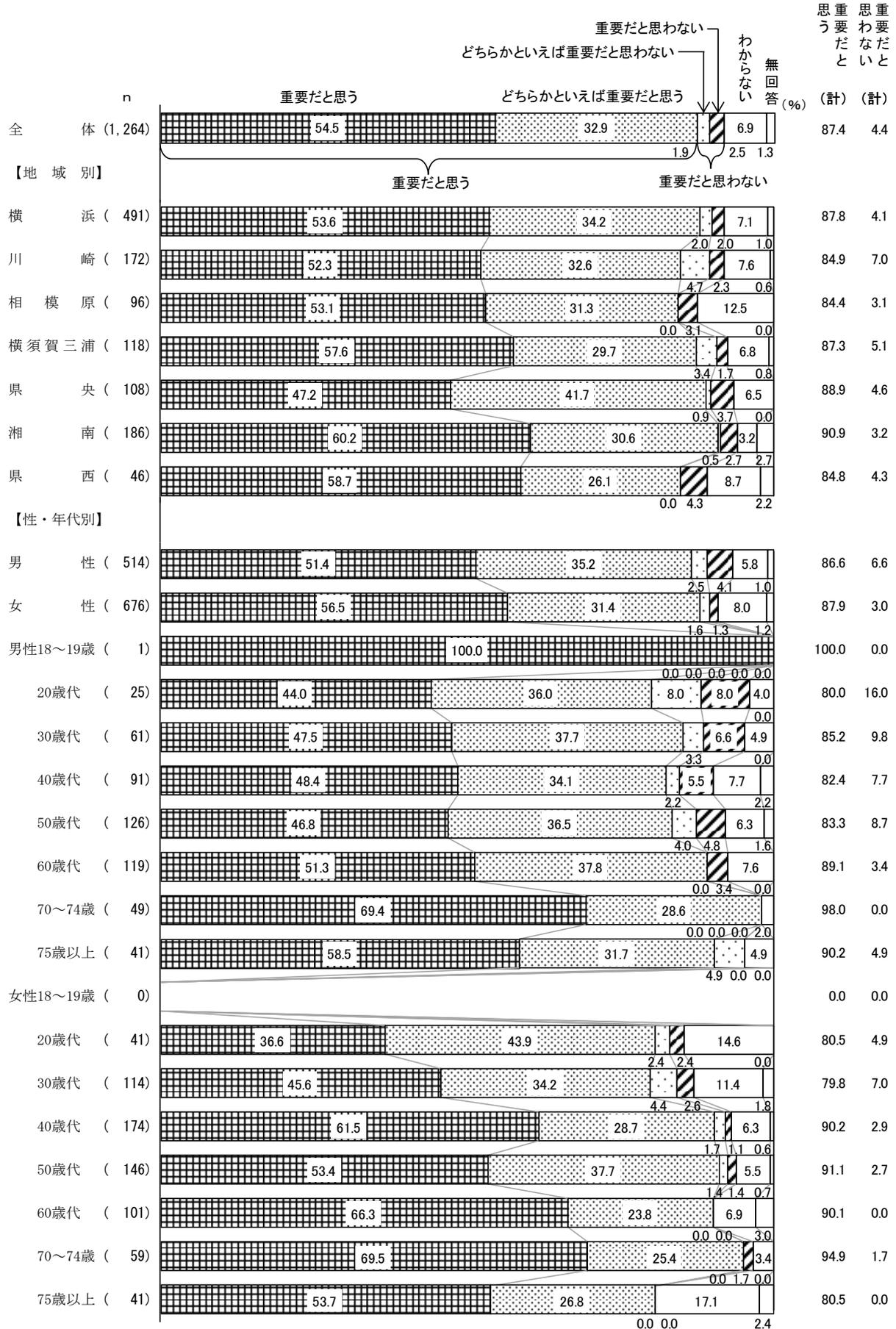
地域別にみると、《重要だと思う》は、湘南が90.9%で最も多く、次いで県央が88.9%であった。なお、《重要だと思わない》は、全地域(3.1%～7.0%)で1割に満たなかった。(図表7-1-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《重要だと思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女ともに70～74歳(男性98.0%、女性94.9%)が最も多かった。

なお、《重要だと思わない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、すべての性・年代(0.0%～9.8%)で1割に満たなかった。(図表7-1-2)

図表7-1-2 「地産地消」の取組の重要度—地域別、性・年代別

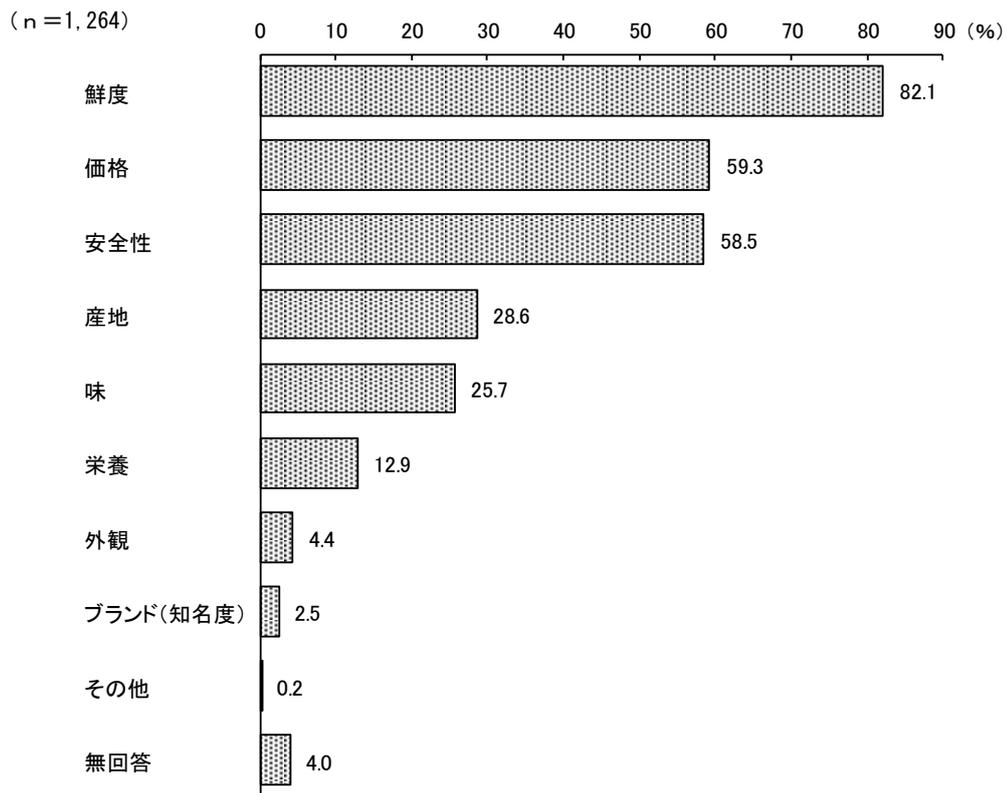


2 農林水産物を購入する際に重視する点【問39】

【全体の状況】

農林水産物を購入する際に、何を重視するか複数回答で尋ねたところ、「鮮度」が82.1%で最も多く、「価格」(59.3%)と「安全性」(58.5%)が約6割で続いた。(図表7-2-1)

図表7-2-1 農林水産物を購入する際に重視する点（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「鮮度」は、県西が95.7%で最も多かった。また、「安全性」は、県央が66.7%で最も多かった。(図表7-2-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「鮮度」は、女性(84.9%)が男性(77.0%)を7.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「鮮度」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が92.7%で最も多く、女性の60歳代(89.1%)・70～74歳(89.8%)が続いた。(図表7-2-2)

図表7-2-2 農林水産物を購入する際に重視する点（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

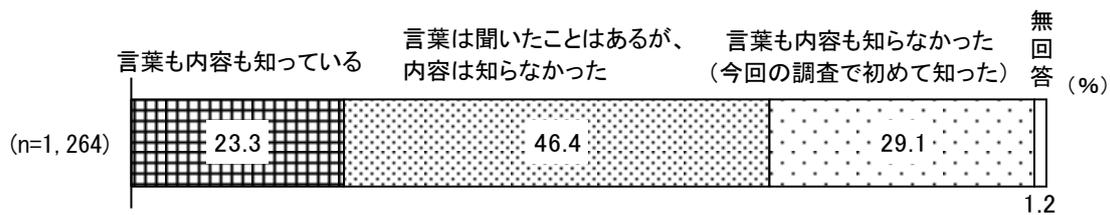
	n	鮮度	価格	安全性	産地	味	栄養	外観	ブランド (知名度)	その他	無回答
全体	1,264	82.1	59.3	58.5	28.6	25.7	12.9	4.4	2.5	0.2	4.0
【地域別】											
横浜	491	79.6	56.8	58.2	29.7	26.5	11.8	4.7	3.1	0.4	3.9
川崎	172	76.2	62.8	55.2	27.9	27.3	13.4	4.1	2.3	-	5.2
相模原	96	82.3	57.3	54.2	30.2	19.8	14.6	5.2	3.1	-	9.4
横須賀三浦	118	83.1	57.6	55.1	31.4	28.0	16.1	6.8	3.4	-	3.4
県央	108	86.1	61.1	66.7	21.3	27.8	11.1	1.9	1.9	-	0.9
湘南	186	84.9	65.1	59.1	26.3	21.5	14.5	4.8	1.6	-	3.8
県西	46	95.7	54.3	56.5	34.8	32.6	13.0	-	-	-	-
【性・年代別】											
男性	514	77.0	58.8	54.5	25.7	29.0	11.9	6.6	4.5	0.4	4.9
女性	676	84.9	59.5	60.5	31.4	23.7	13.8	2.8	1.2	-	3.4
男性18~19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	48.0	48.0	56.0	12.0	32.0	20.0	12.0	4.0	-	20.0
30歳代	61	68.9	55.7	37.7	36.1	32.8	11.5	13.1	11.5	-	3.3
40歳代	91	70.3	50.5	53.8	20.9	31.9	15.4	4.4	2.2	-	9.9
50歳代	126	82.5	59.5	54.8	23.8	34.1	9.5	6.3	4.0	-	2.4
60歳代	119	82.4	56.3	60.5	31.9	22.7	9.2	6.7	4.2	0.8	2.5
70~74歳	49	83.7	67.3	51.0	28.6	28.6	12.2	-	2.0	2.0	4.1
75歳以上	41	80.5	80.5	63.4	14.6	19.5	14.6	7.3	4.9	-	2.4
女性18~19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	75.6	58.5	48.8	26.8	34.1	9.8	2.4	7.3	-	4.9
30歳代	114	81.6	64.9	51.8	34.2	28.1	15.8	9.6	-	-	2.6
40歳代	174	85.6	58.0	60.9	35.6	21.8	13.8	1.1	-	-	3.4
50歳代	146	82.2	59.6	61.6	28.1	23.3	15.1	2.1	0.7	-	4.8
60歳代	101	89.1	54.5	64.4	29.7	26.7	12.9	1.0	2.0	-	3.0
70~74歳	59	89.8	69.5	69.5	28.8	13.6	10.2	-	1.7	-	1.7
75歳以上	41	92.7	48.8	68.3	29.3	17.1	14.6	2.4	2.4	-	2.4

3 「かながわブランド」の認知度【問40】

【全体の状況】

「かながわブランド」という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」が46.4%で最も多く、次いで「言葉も内容も知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が29.1%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 「かながわブランド」の認知度



【地域別の状況】

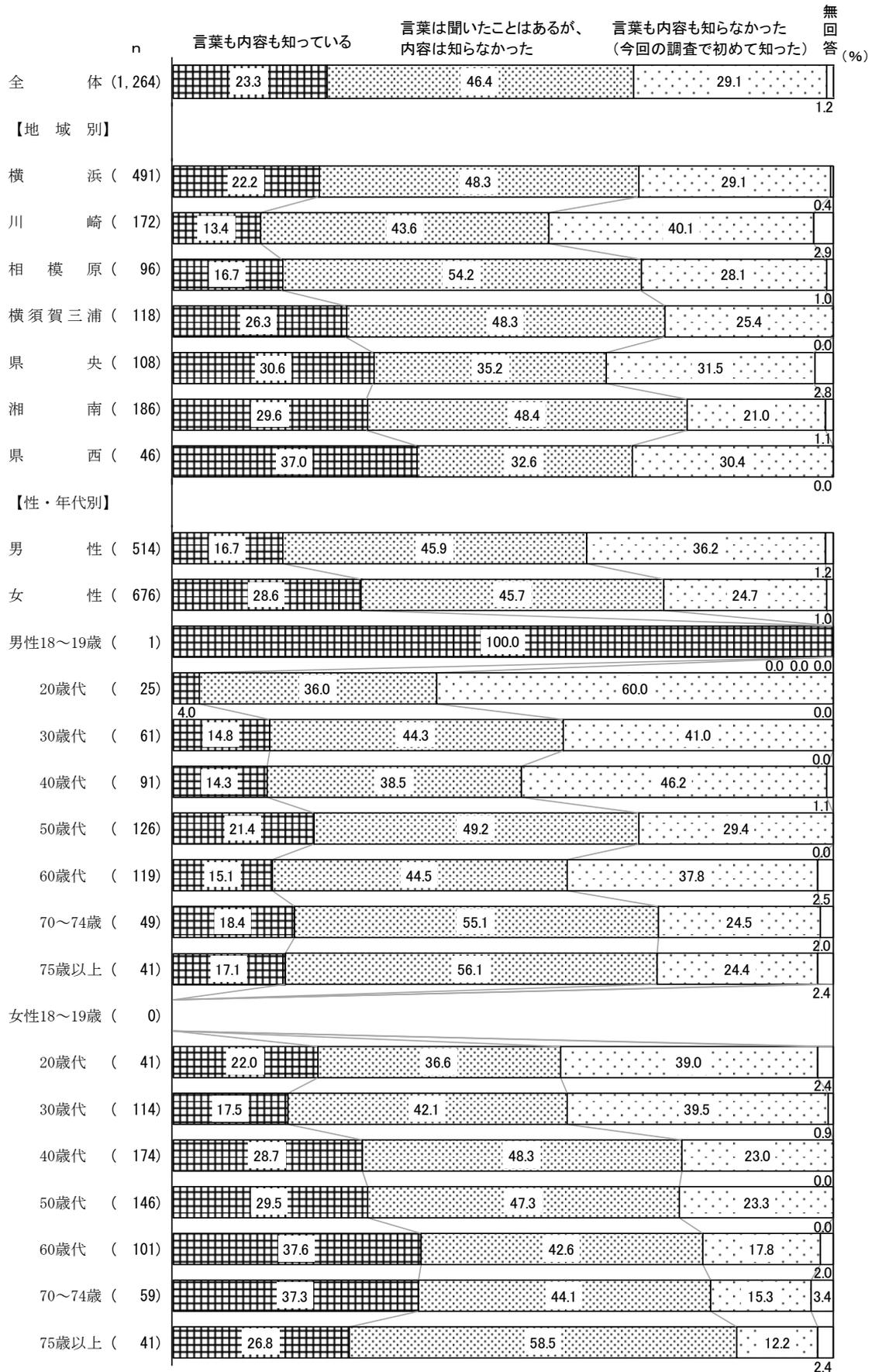
地域別にみると、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」は、相模原が54.2%で最も多く、次いで湘南が48.4%であった。また、「言葉も内容も知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、川崎が40.1%で最も多かった。（図表7-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は、女性（28.6%）が男性（16.7%）を11.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」は、男女ともに75歳以上（男性56.1%、女性58.5%）が最も多かった。また、「言葉も内容も知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の40歳代が46.2%で最も多かった。（図表7-3-2）

図表7-3-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別

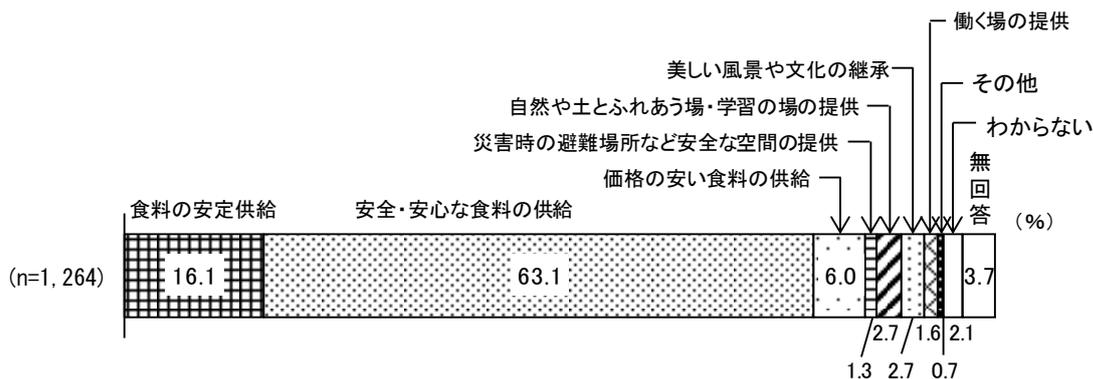


4 神奈川県農業に期待する役割【問41】

【全体の状況】

神奈川県農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が63.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が16.1%であった。（図表7-4-1）

図表7-4-1 神奈川県農業に期待する役割



【地域別の状況】

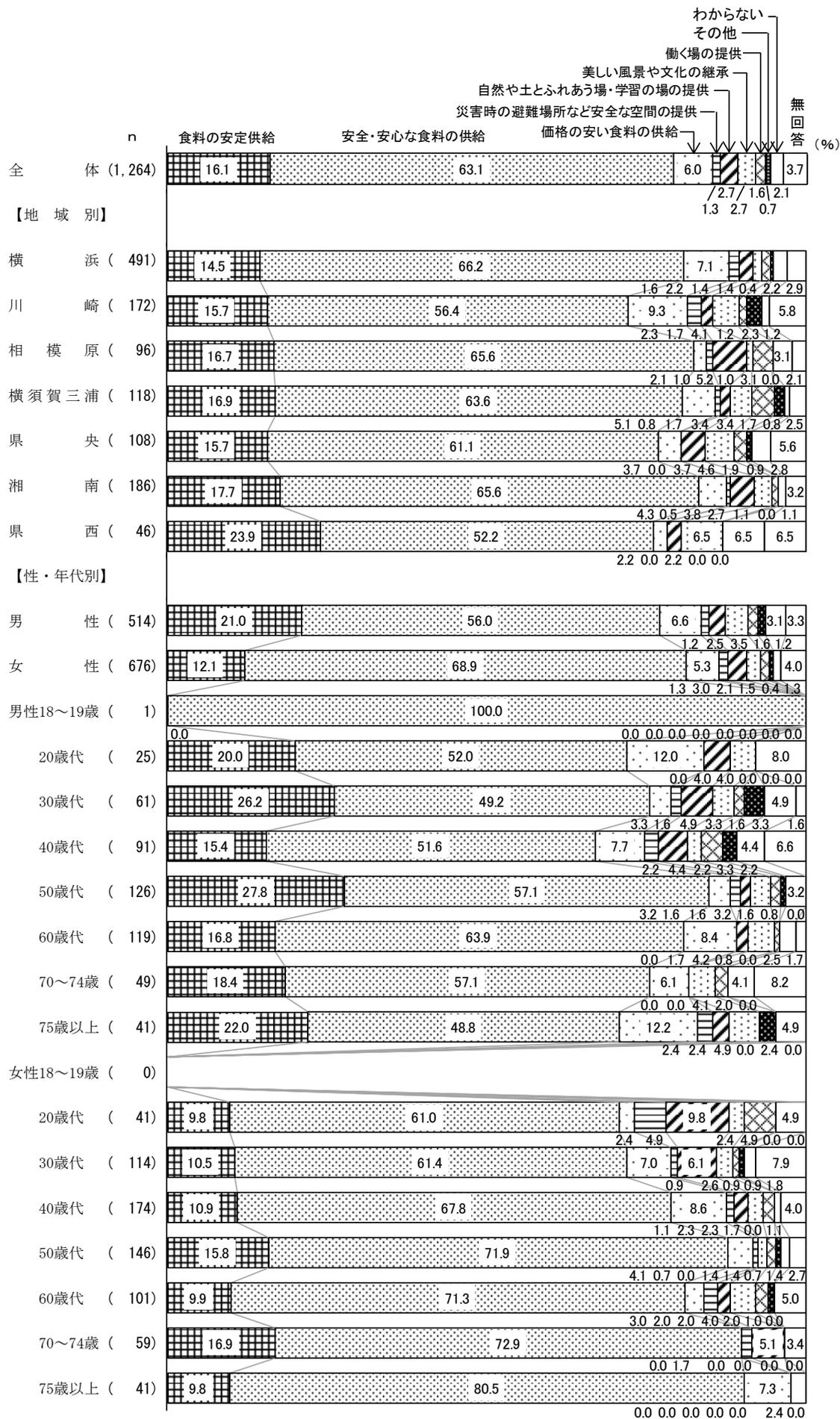
地域別にみると、「安全・安心な食料の供給」は、川崎（56.4%）と県西（52.2%）を除く5地域（61.1%～66.2%）がそれぞれ6割を超えた。また、「食料の安定供給」は、県西が23.9%で最も多かった。（図表7-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「安全・安心な食料の供給」は、女性（68.9%）が男性（56.0%）を12.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「安全・安心な食料の供給」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が80.5%で最も多く、次いで女性の70～74歳が72.9%であった。また、「食料の安定供給」は、男性の50歳代が27.8%で最も多かった。（図表7-4-2）

図表7-4-2 神奈川県農業に期待する役割—地域別、性・年代別

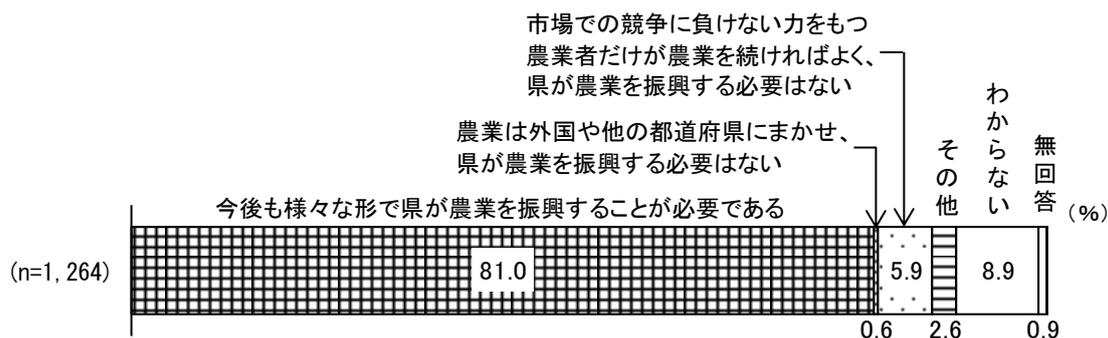


5 将来の神奈川県農業に対する考え【問42】

【全体の状況】

将来の神奈川県農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」が81.0%で最も多かった。(図表7-5-1)

図表7-5-1 将来の神奈川県農業に対する考え



【地域別の状況】

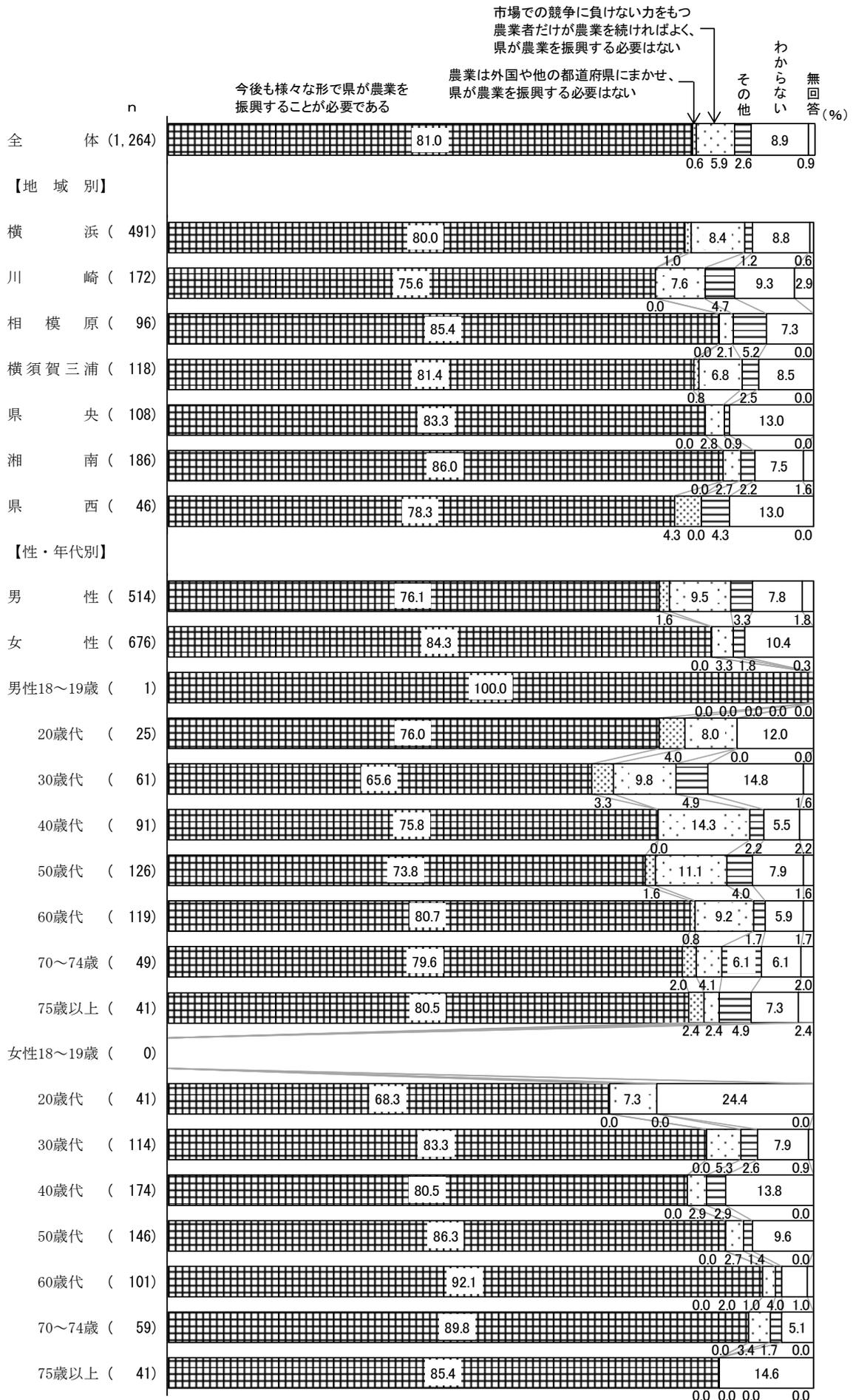
地域別にみると、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」は、県西 (78.3%) と川崎 (75.6%) を除く 5 地域 (80.0%~86.0%) がそれぞれ 8 割以上であった。(図表7-5-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」は、女性 (84.3%) が男性 (76.1%) を 8.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、女性の60歳代が92.1%で最も多く、次いで女性の70~74歳が89.8%であった。(図表7-5-2)

図表7-5-2 将来の神奈川県農業に対する考え—地域別、性・年代別

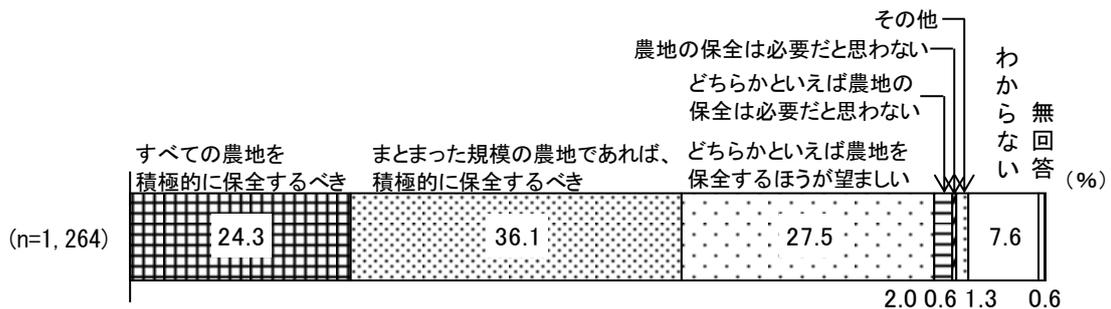


6 県内にある農地の保全に対する考え【問43】

【全体の状況】

県内にある農地の保全について、どのように思うか尋ねたところ、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全するべき」が36.1%で最も多く、「どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい」(27.5%)と「すべての農地を積極的に保全するべき」(24.3%)が2割台で続いた。(図表7-6-1)

図表7-6-1 県内にある農地の保全に対する考え



【地域別の状況】

地域別にみると、「すべての農地を積極的に保全するべき」は、県西が39.1%で最も多かった。

(図表7-6-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全するべき」は、男性(40.1%)が女性(32.8%)を7.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「すべての農地を積極的に保全するべき」は、女性の75歳以上が43.9%で最も多く、次いで女性の60歳代が32.7%であった。(図表7-6-2)

図表7-6-2 県内にある農地の保全に対する考え—地域別、性・年代別

